

## 6.次年度以降の課題及び改善点

### 6.1.今年度の実施から見た課題

今年度は開校の年度であり、前年度までに計画を十分していたものの、やはり実施と並走しながら構築していくような部分もあった。計画していた部分についても、実施してみることでその意味付けが変わったようなこともある。

開建高校のホームルーム教室は L-pod という特殊な空間である。移動が前提の空間であり、生徒が学びの用途に合わせて自由に活用することを想定していた。しかし、実態としては、生徒は特定の生徒、それも親密な生徒どうしで集まってしまい、メンバーも場所も固定されてしまうような場面が多々見られた。また、手法なり選択肢なりを自由に選ばせる場面も多く設定されたが、その際も生徒は比較検討をするよりも、自分のなじみの方法や偏見にこだわる傾向が見られた。

生徒の主体性を育成する、といったときに、どうしても放任主義のような考え方で教育活動を展開しようとしてしまう場合がある。これは本校に限った話ではなく、どの教育現場でも起きていると推察され、これが誤りであることを指摘する言説も多くある。しかし、同様の問題が本校でも再現されてしまっている。教員は介入と放任の二分法に陥りがちで、主体性について言及するときには放任を強く行ってしまう。これは程度問題であるのか、そもそもこの二分法の視点が間違いなのか、あるいはその両方なのか。いずれにせよ、安易に流動性や自由度を高めたとき、かえってそれが阻害されるという現象が起きる。流動性や自由度が高まったとき、そこにある可能性を自らの変化や挑戦に使おうとするよりも、むしろ安定的な状態の維持に使おうとするのは想像に難くない。強制されないという自由だけがあっても、切迫した状況というインセンティブがなければ、人は安定状態に向かう。本来であれば、挑戦の果てに変容を期待しているはずである。

より具体的な問題に置き換えると、空間配置や人間関係の自由度が高かったとしても、常に最適な状態へと変化を続けることは、生徒にとって必ずしも望んでいるものではないことが分かる。変化はそれ自体にエネルギーが必要であり、毎回根底から状況を捉えなおし、前回とは異なる状況を自らに課すことは、それを行おうと思う強い気持ちが生じないと、生徒にとって選ぶ選択肢とならないのである。

このように考えると、毎回でなくても生徒が自分の学ぶ状況について問い直せる機会を、活動の中で計画的に配し、生徒が状況を固定し、思考停止に陥らないよう、時折変化へと方向づけていくことは必要であると考えられる。

生徒が自由度の高い状況にありながら、「日常的な状況」に落ち着くことを望む傾向性は、教室内の机配置や人間関係といった身近なテーマだけではないことが、生徒のチャレンジの状況からも読み取れる。確かに生徒たちは本年度の実践でさまざまな挑戦をした。だが、まだまだ自分たちの身近なところでおさまっている印象がある。もちろん、身近なところからでも挑戦ができたのは評価できる。だからこそこの成果を踏み台に、次のステップに向かう姿勢を育まなければならない。年度末に生徒が記載した「キャリア・パスポート」でも、生徒は身近なチャレンジに乗り出すことが出来たことを指して、今年度の成果と捉えている傾向性が見られた。その一方で、生活圏の中での「今の自分でできる」挑戦を続けていこうという、一見積極的だが、挑戦的ではない記述も一定数見られた。次のステップとは「生活圏から飛び出す挑戦」といえる。これは単なる非強制的態度や余白を用意するだけでは不十分であろう。

「生活圏から飛び出す経験」をどのように誘発するかについて、本年度の実践の中で上手くいった部分もあった。特に、未来協創会議や New HORIZON Day においてその特徴がみられた。

未来協創会議は学校や地域の未来について広く議論していく組織である。今年度生徒たちは校則の改定に向けて学校全体を巻き込む議論を起こそうとしたり、新しい生徒会組織について考えたり、地域との交流事業を立ち上げようとした。New HORIZON Day は、学校の施設を開放して、生徒が自分のやってみたい企画を準備・実施する活動である。今年度生徒たちはスポーツチャンバラや大喜利など幅広いジャンルの企画をした。

この2つに共通するのは、以前の制度の中でも可能だったはずの取組に生徒が精力的に参加していたことである。潜在的には生徒たちは以前からこれらの活動を行うことが可能であり、場を用意したことによってその可能性が顕在化した。そういう意味では、本事業の現時点での成果は生徒に「可能性を使うこと」を促した点にあるといえる。場を制度化することによって、生徒たちに学校のもつ環境とインタラクションする可能性を提示できたのかもしれない。これが「やってみよう」を「やれるかも」に変じえたのではないだろうか。

生活圏を飛び出す挑戦を促すには、それ相応の「場」を設定することが必要である。生活圏を飛び出すためのポータルやインターフェイスのような場が装置として必要になるが、例えば教科・科目でいえば問いから始まる授業において、豊かな広がりをもつ授業展開してじっくり知識を使いながら取り組むようなパフォーマンス課題が、自分の学びを試す「舞台」となれば実現されるだろう。また、中期長期で取り組むような生徒プロジェクトや校外で行われる課外活動への道筋をもっと整備し、アクセスできる「場」があれば、生徒の積極的な参加を促せるかもしれない。

また、制度だけではなく、その制度の中で動く教員がどのように生徒と関わるのかもまた課題である。本報告書の中でいくつかの成果を報告したが、その成果は一部の教員のチャレンジによるところが大きいのも事実である。

本校は、京都市立塔南高等学校を前身とし、開校年度の令和 5 年度は 1 年生のみ開建高校の生徒で、2、3年生は塔南高校の生徒であるという 2 校併存体制であった、つまり、本報告の内容は1学年に限定されたもので、関わる教員の数も全校の三分の一程度にとどまっている。今年度の実践の中で教員が編み出したさまざまな実践は、再現性のある「技」の域には至っていないものが多く、その洗練と共有が大きな課題であるといえる。

「生活圏から飛び出す挑戦」を促す「舞台の設定」および「指導の洗練・共有」が課題といえるだろう。このような課題意識は研究開発(3)に主に由来するが、開建高校をこのような学校としてデザインしていくにあたり、最も大きな課題であると考えられる。

研究開発(1)の内容について、前述のように生徒の学び方が固定化する傾向がある中で、複数の教科担当・チーム担任制を担う教員の割合は増加する。次年度に入学する 2 期生の生徒たちに対し、新たに開建高校の学びを担当する教員が、今年度の実践を継承・発展できるかどうか課題となる。そのためには、教科レベルでの引き継ぎや、教職員研修の継続的発展が求められる。「コアスキル」については、生徒にとって親しめるものとして受け取りは加速したものの、それらもまた固定的なものとして受け取られ、生徒が「コアスキル」をもとに自分の資質・能力の発展とその自覚をしていくことへの動機づけが十分とはいえない。2 年生における教育活動において、「コアスキル」を前提に、より高次の到達を促すプログラムづくりが鍵となる。

こうした課題の解消という発想に加えて、前述のように「生活圏から飛び出す挑戦」として、学びを深め、教科を横断した学びへと駆動していくことが必要となる。もともと、新学習指導要領において、2 年次からの科目は 1 年時の学びを受け深化していくものとして設定されている。ただ新科目として実践するのではなく、開建高校の 1 年時の学びを

踏まえて授業として、生徒が自らの学びを展開していく必要がある。

研究開発(2)に関して、探究学習全体の進展については 3 か年計画の初年度段階に当たるため、厳密な評価はまだ尚早である。1 年「協創 I」はこの後に展開する予定の諸活動と比して、学校側が設計した割合が多く、生徒は学校が提供したプログラムの中で多様な思考を展開した。2 年次以降、学びの責任を生徒に委ねていくことになるが、この点でも生徒が「生活圏から飛び出す」ような発想力をもって挑むことができるようにすることが課題である。

「京都探究」および「未来デザインプログラム」においては、地域の方々との連携の維持発展が課題である。特に「京都探究」の「考える素材」について、今年度は生徒の活動の具体例がない状態で、各連携先の方々にお考えいただくことになった。また、連携先間での調整等も行わなかった。そのため、「考える素材」の設計意図にはさまざまな水準・方向性が入り混じることになった。学校側からの抽象的な説明のみで、各企業・団体の方々には「考える素材」を検討いただくことになったゆえに発生した状況であった。次年度は、今年度の生徒の活動を踏まえ、より企業・団体の方々にとっても高校生に問うてみたいことを「考える素材」として設定いただくとともに、多種多様な「素材」を提供いただけるよう、連携先の拡大を実現することが課題である。

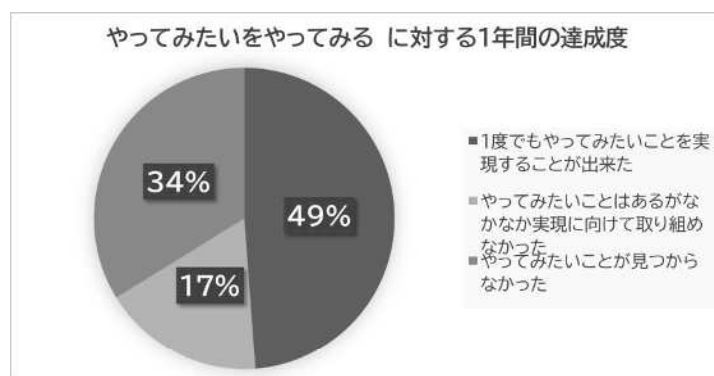
---

## 6.2.次年度に向けた改善点

「生活圏から飛び出す挑戦」、その舞台の設定をいかに行うのか。現状においても、教育課程内にさまざまな取組が用意されている。各種ボランティアやコンクール等、校外での活動に関するポスターを掲示したり、教科の中でも探究的な取組とパフォーマンス課題が設定されつつあったりするが、教育課程の中で散り散りに配置されているような状態である。「生活圏を飛び出す挑戦をいかに促すか」に対して、「舞台の設定」は教育課程全体を通しての大きなテーマになるだろう。さらに、「大きな舞台」となりうるものとして、課外活動を含めて考えると、地域や他の学校との連携といった、多くの他者と関わり、まなざしを集めた状態で自分のアイデアや活動の成果を試すような機会も考えられる。地域の方々とのより実践的な学びや、学校間・指定校間の連携をより一層拡充し、生徒が高校 3 年間の間で、自分の生活圏を飛び出す挑戦へと駆動する仕掛け作りは、引き続きの課題である。

図 56 は、1 月時点で開建高校 1 年生が答えた「やってみたいをやってみる」に対する 1 年間の達成度」自己評価である。1 度でもやってみたいことを実現することが出来たと答えた生徒が約半数いるのに対し、「やってみたいことがあるがなかなか実現に向けて取り組めなかった」生徒が 17% 存在している。この 17% がなぜ「取り組めなかった」のかは、その他の生徒の挑戦に対してもマイナスに作用するおそれがあると考えている。まだやってみたいことに出会っていない 34% のケアに終始することなく、それぞれの状況に合わせた指導が肝要となる。

図56 やってみたいをやってみる に対する1年間の達成度



そして、舞台として設定するならば、それに向けて十分な準備の期間が必要であると同時に、切実性が必要だろう。つまり、生徒が見通しと熱意を持ってその舞台に臨めるようにする必要がある。いくつかの取組が重なっていたり、告知が直前になったりしては、生徒は選択もできなければ集中もできない。よって、各取組を教育課程の中に生徒の活動量も見積りながら位置づけていくが必要になるだろう。旧来、学校はそれを年間行事予定などをにらみながら行ってきたが、教育活動が単線的な構造でなくなった現状においてはこれだけでは不十分である。複雑なシステムを整理するには、現在校内で行われている取組をガントチャート等なんらかの一覧性がある形で表現し、取組を整理する必要がある。

そのような生徒の挑戦を指導する方法の洗練・共有については、まず現在行っている教職員研修および積極的に授業を見合う取組を継続・発展させていくことが重要である。ただ、それだけでは十分な研修はできない。やはり日々の研究やコミュニケーションが最も重要であろう。日々の業務の中で私たち教員は膨大な言葉を交わしているはずであり、その発話内容がいかに関心に向かうのかが最も重要である。例えば、日々行われる打ち合わせの中でも教育について考える時間が確保できるはずである。打ち合わせの中で創発的なコミュニケーションが行われることが重要である。その点、現在本校ではチームで教科指導をする体制が構築されているところである。チーム教科指導のデメリットとして、打ち合わせ時間の増大があげられているが、これをむしろ契機とし、教育活動を協創していく時間にしたい。そのための仕掛けづくりもまた、生徒に舞台を設定するときと同じように考えられるのではないかと考えている。

### 6.3.成果普及のための取組

#### ○学校案内パンフレットの作成

本校の特色ある取組について、その成果を普及するための広報活動の一つとして学校案内パンフレットを作成している。公教育の果たすべきアカウンタビリティとしての側面もあり、どのような教育活動を展開しているのか、その成果はどのようなものなのかについて一定説明できるような学校案内パンフレットを作成した。特に本校は令和5年度開校であり、新しい普通科の認知度も低く、まだまだ市民への周知ができていない。さらに、本校は総合的な探究

の時間の内容、豊富な課外活動、特殊な学習空間など特色がある。これを広報することは入学生のミスマッチをなくすうえでも重要である。

学校案内パンフレットは通学圏の中学校に在籍しているほぼ全ての中学三年生に配布した。また、中学校を教職員が訪問し、中学校の教員に向けて教育活動について説明も行った。

また、学校案内パンフレットは企業や団体への説明時や、さまざまな研究会などでも配布した。広報活動を進めるうえでの主要な媒体としてその威力を発揮した。

## ○学校説明会

学校案内パンフレットはあくまで文章での説明にすぎないので、やはり教育活動をイメージするのは難しい。そこで、体験的な広報活動として、学校説明会を開催した。おもな日程と内容は以下の通り。

### ○第1回学校説明会 7月15日

L-podを使った教科の授業体験会をメインに行った。国語、英語、数学、理科、歴史の五教科の45分×8コマを実施。中学生にも理解できる内容で、本校の授業の特色の一つ「問いから始まる授業」を体験してもらった。

また、企画・運営に生徒ボランティアも参加してもらい、生徒発案の企画として、校内ツアー、個別相談会・座談会、コアスキルカード体験会が行われた。コアスキルカード体験会の発案はこちらの予想になく、学校設定科目の成果が思わぬ形でみられた。

### ○オープンスクール 8月18日

学校生活の紹介、校内スタンプラリー、コアスキルカード体験会、個別相談会・座談会、部活動体験会を行った。基本的に生徒ボランティアが企画と運営のほとんどを担う形での開催とした。学校説明会をただの広報活動にせず、生徒のノンフォーマルな学びの場にすることが一つの目的であった。生徒の主体的に活動する姿を参加者にみてもう意図もあった。

### ○第2回学校説明会 9月16日

### ○第3回学校説明会 10月21日

グループワーク体験会をメインに行った。ここでは、特定教科の内容ではなく、対話の中で触発し合いながら課題解決をするワークショップ型のグループワークを行った。本校の教育活動では、対話・協働の場面が多く設けられているため、その意義と実態を広く知らせておく必要があるためだ。また、ひきつづき生徒による企画・運営への参画も行った。複数回の実施の中で運営の手際や来客者への対応などにわかりやすく生徒の成長がみられた。

### ○個別相談会 12月2日

個別ブースでの相談をメインで行った。

### ○グローバルフェスタ 12月16日

市立高校が合同で行う中学2年生向けの学校説明会。今年度は本校を会場に実施した。

生徒発案のコアスキルカード体験会を生徒の司会進行メインで行った。

以上の学校説明会で延べ1,724名の中学生が来場し、保護者も含めると3,000名ほどの方に直接、教育活動の一端を見てもらうことができた。

## ○京都市立高等学校「総合的な探究の時間」研究会

また、成果還元に向けた動きとして、京都市における教育研究団体である京都市立高等学校「総合的な探究の時間」研究会において「コアスキルカード」に関する教育活動を報告した。この報告を踏まえ、「コアスキルカード」を教員が行う日々の指導や教育活動を多角的に分析する材料として、そして生徒の探究を促進するヘルプツールとして導入できるのではないか、という提案がなされた。そこで、京都市において「京都における『集団での学び直しの教育的ニーズにこたえる学校』」として、困りのある多様な生徒を受け入れている京都市立京都奏和高校での「総合的な探究の時間」にかかる教職員研修に、本校研究開発主任が講師として登壇した。研修では、京都奏和高校の総合的な探究の時間(ビジテックⅠ)の年間の活動の中で、生徒の学びや経験を「コアスキル」の観点で再整理し、どういった力が身に付いたことを教員が成果として捉えていたのか、あるいは教員がそのときにどういったスキルを生徒に身につけようとして支援を行っていたのか、などについて図式化し、教員間で交流した。

開建高校の生徒を想定した「コアスキルカード」は、入学生との質が違う京都奏和高校において、開建高校と同じような授業展開での習得はできないものの、生徒に育みたい力としての共通項が多いことがコメントとして多く挙げられた。また、コアスキルカードに即発される形で、生徒に育みたいスキルの中に「前に進むスキル」「その場で立ち止まり考えるスキル」「ふりかえり反省するスキル」というような分類が新たに出来得ることが、参加者から提案された。

図55 京都奏和高校での「コアスキルカード」研修



この事例から、「コアスキル」および「コアスキルカード」の成果は学校を超えて、生徒の実践だけでなく教職員の資質向上・カリキュラムマネジメントにおいても寄与しうることが実感された。

# 參考資料

**スキル** 何かを変えてみる

考えがまとまっていない状態でも、一度行動に移し、そこからの変化を読み取る「クラスルールはまだまとまっていけないけれど、最初の1つだけまず取り入れてみよう!」…1つ行動に移すことで生じた変化からまとめた考えが進むかも

属性：探索 Search-01

もしかしら…という心配で行動に移せないとき

議論が白熱し、なかなかまとまらないとき

議論や考えが行き詰まり、方向性が見いだせないとき

**スキル** 言葉を探してみる

自分の考えや感情を最も適切に表す言葉を探る

「共存?」と「共生?」を比べて、「共生の方が近いかな?」…言葉を調べることで、物事を新たな視点で見られる可能性が開けるかも。

属性：探索 Search-02

自分の考えていることにぴったりの言葉が見つからないとき

既に問題とされていることを、別の視点で考えたいとき

名前がない事柄について、自分なりに考えたいとき

**スキル** じっくり見てみる

注目する対象を決め、その対象についての観察して考える

「履物の人の人々の行動をじっくり見てみよう。…スズキを見ている人ってこんなに多いんだ!」…ものごとや感情など複雑なものをも、考える手がかりが見つかるかも。

属性：探索 Search-03

複雑すぎて、何から手を付けてよいかわからないとき

当たり前だと思っていることに、新たな視点を見つけたとき

物事から距離を取って、冷静に見つめたいとき

**スキル** 形にしてみる

自分の考えを言葉・図・絵・模型など何らかの形でとりあえず自分の外に表現してみる

「文書にまとめるくらい…一冊絵と図で書いてみよう。…このつながりが考えられてなかったんだ!」…考え切れていないところを見つけたり、新しい見方が発見できるかも。

属性：探索 Search-04

1つの考え方だけでは行き詰ってしまったとき

悩みが深くて、どうしていいかわからなくなったとき

感性でとらえたことを残したいとき



**スキル**  
SKILL  
仲間分けしてみる

一定のルールに従って、複数のものをまとまりにする

「みんなの旅行のアイデアを、仲間分けしよう。箱に入るか入らないかに分けられそうだな!」  
「たっさんのアイデアやデータに法則を見つけ、考えをまとめやすくなるかも」

属性：分析  
Analysis-01

**スキル**  
SKILL  
比べてみる

一定の要素やルールに従って、複数の物事がどう似ているか、どう異なるかを考える

「前の剣しさと、今の剣しさを比べてみよう。今回の方がずっと長いなあ!」  
「…一見別々の物事の特徴や関係性の違いが見つかり、考えをまとめやすくなるかも」

属性：分析  
Analysis-02

**スキル**  
SKILL  
さかのぼってみる

ある状況について、それが起こった背景や経緯をさかのぼり、状況を捉えなおす

「議論をしていたら気まぐしくなっていた。本来の目的は何で、どうしてやったんだろうか!」  
「…その状況の理由や背景を捉え、その状況を分析するための指針が手に入るかも」

属性：分析  
Analysis-03

**スキル**  
SKILL  
見えるようにしてみる

形のない考えや感覚などを、記号や図などを用いて、構造的に整理する

「国際経済のしくみは難しいな。矢印でなごる図を作ろう。新聞記事になっていたのは、この部分だったんだ!」  
「…複雑なことや形のないものを捉えやすくなるかも」

属性：分析  
Analysis-04

多くの意見が出てまとまらないとき

豊富なデータが取れたとき

複雑な物事を特定のやり方で理解したいとき

一見バラバラに見える複数の物事を整理したいとき

複数の物事を一貫した目線でとらえたいとき

自分や他者にとっての物事の意味や位置づけを考えたいとき

本来の目的や予定から想定外の事態が発生したとき

考えたい物事の根本的な前提や理由などを捉えたいとき

自分の考えの源泉をたどりたいとき

複雑なこと、形がなく、理解しにくいことがあるとき

自分の考えや感情を、理解できるように整理したいとき

物事の変化や動きを感覚的にとらえなおしたいとき

**スキル**  
SKILL  
伝える

自分の意見や考えを表明し、相手の反応や意見を受け止めつつ、理解を促す

「考えたいことを伝えるには、言葉だけでなく、顔も添えて、分かりやすくしてみよう」  
…自分の考えが伝えられるかも、伝わらなくても、どこが伝わらなかったのかわかるかも。

属性：表現  
Presentation-01

**スキル**  
SKILL  
受け止めてみる

メッセージや情報を受け止め、その時の自分の反応を表す

「あの指摘をした人のお話にあつた不安もやり抜く覚悟で、こういう気持ちかな」  
…メッセージや情報を自分がどう感じたか、表現することで、自分のものにできるかも

属性：表現  
Presentation-02

**スキル**  
SKILL  
分からないと言ってみる

わからないと言葉で表してみる

「○○について考えていると、相手の反応が想像できなくて分からないんだ！」  
…分からないと言葉で表現して、新しい道が開かれるかも

属性：表現  
Presentation-03

**スキル**  
SKILL  
まねしてみる

ほかの誰かの活動や思考を取り入れ、できるだけ同じように考え、活動してみる

「Aさんはチーを考えると、誰か他の人のアイデアで分解して考えていた。私も、まねしてみよう」  
…自分で考えつかない現象や方法の良否や、新たな刺激があるかも。

属性：表現  
Presentation-04

自分の考えを整えたとき

意見が違つと分かつていても、自分の主張をしたいとき

伝わるか自信が無いが、伝えたいことがあるとき

未経験の物事に触れたとき

挑戦する勇気が出ないとき

メッセージを受け取り、その返答をしたいとき

調べてもわからないことがあるとき

自分の気持ちから分からなくなつた時

形のないことで迷いが深まつたとき

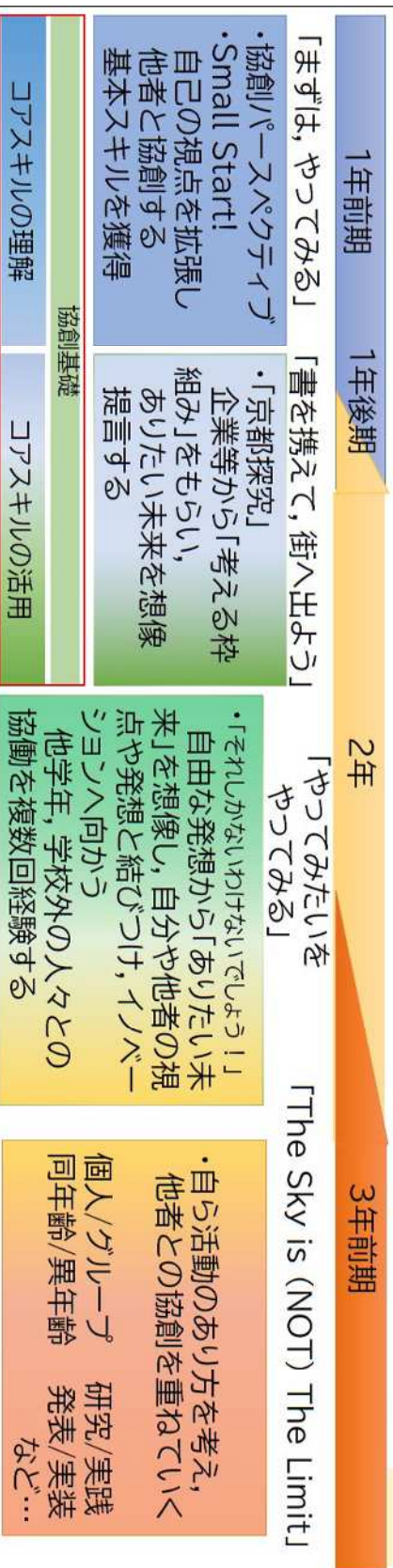
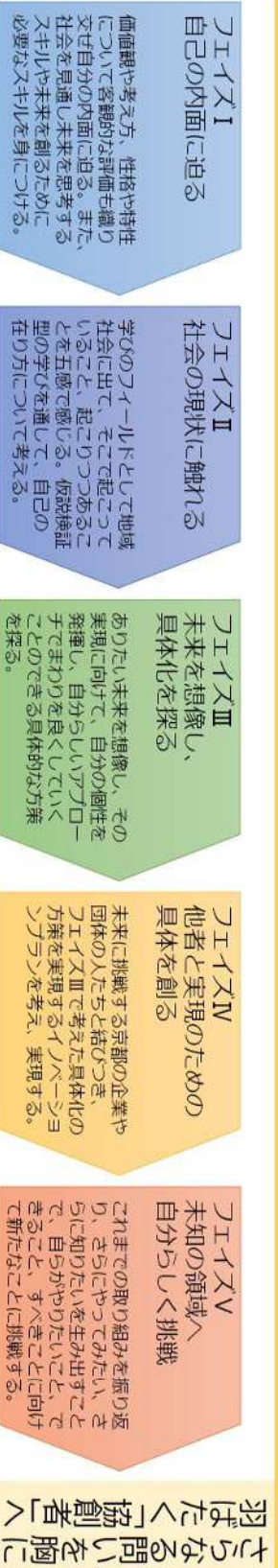
新たな視点から物事を考えたいとき

優れた実践を行っている人から学びたいとき

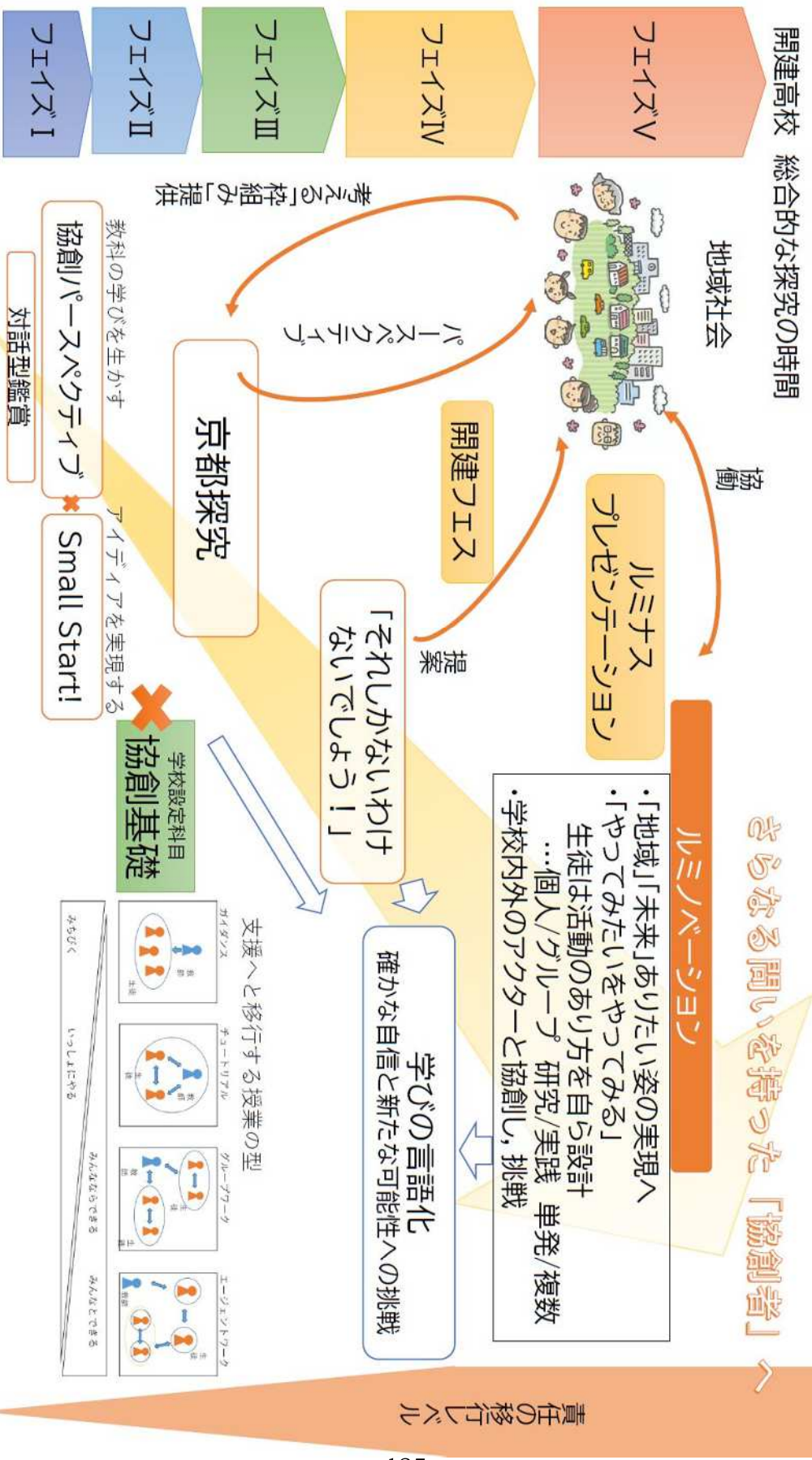
自分の考えや取れる行動を拡張したいとき

開建高校 総合的な探究の時間 特徴について

- ・個で進める探究と他者と協働する探究を並走し、複雑で多様な地域社会での共生のあり方を考える
- ・初期チュートリアルを終えたら、生徒の責任ある計画の立案・実行に任せ、複数の探究のサイクルを経験
- ・成果ではなくプロセスを重視し、生徒が自由に発想し、確かな自信をもって行動に移す姿勢を喚起



「総合的な探究の時間」概念図



「京都探究」協力団体と「考える素材」、生徒の探究テーマ

協力団体	考える素材	生徒の探究テーマ
株式会社クーバルC3	障がい者の可能性を引き出し、障がい者がより多くの場で働けるようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外ではあたりまえの制度から考える障がい者の働き方。</li> <li>・障がいを持つ人が SNS 上で活躍するには？</li> <li>・障がい者も健常者も心地良い職場をつくるためには？</li> <li>・身体障がい者にとって働きやすい職場環境とは</li> <li>・相互理解</li> <li>・知的障害の方が生き生きと働けるようにしたい！！</li> <li>・働きやすい環境づくり</li> </ul>
京都信用金庫 上鳥羽支店	地域に合ったコミュニティを作りたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の私たちにできること</li> <li>・祭りの活性化のために</li> <li>・若者と高齢者で何をしたら楽しいか</li> <li>・地域コミュニティができる施設を作る</li> <li>・唐橋地域のために開建高校ができることとは</li> <li>・南区に住んでいる高齢者の抱えている課題を踏まえて</li> <li>・新しいコミュニティを提案する</li> </ul>
亀屋良長株式会社	伝統文化を守るだけでなく、伝統を道具として使い、に喜んでいただけて幸せになって頂けるものを届けたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの時代に合った和菓子とは？</li> <li>・外国人観光客に京都の伝統を伝えるには</li> <li>・若者と茶道</li> <li>・若者に今伝えたい！</li> <li>・身近なものによって広まる伝統文化</li> <li>・伝統×○○</li> <li>・伝統×モダン</li> <li>・日常に伝統文化を浸透させるためには・・・</li> </ul>
株式会社ウエダ本社	日本人の仕事観、働き方を変えたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフハーフバランス</li> <li>・男性の育休を取りやすい職場に</li> <li>・先生という職業の現状を変える</li> <li>・日本人男性の育休の取得率を上げるにはどうすれば良いだろうか</li> <li>・将来につなげる休暇への考え方</li> <li>・働く人を日本の仕事問題から救って見せる</li> <li>・日本人の仕事観を変えるために必要なこと</li> <li>・若者が社会に出たとき、日本人らしさを生かした働き方</li> </ul>

		<p>ができる環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の日本人の働き方は本当にベストなのか。～意見を言える NIPPON へ～</li> <li>・社会のスケジュールを変えるには</li> <li>・LGBT×仕事 ～LGBTと福利厚生から見る より良い働き</li> <li>・いじめについて</li> <li>・社員が作る会社</li> <li>・保育士の未来に明かりを！</li> <li>・“働く”をより理想的に</li> <li>・長時間労働の削減のためには</li> <li>・帰りたい。～みんな、帰ろうよ？～</li> <li>・ブラック企業の現状と無くすためには</li> <li>・人間関係と長時間労働の関係</li> <li>・残業時間の問題</li> <li>・労働時間を減らすには</li> <li>・私たちの未来をよりよくしたい！</li> </ul>
京セラ株式会社	「誰かのため」になることをしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・expand your dreams with 京セラ</li> <li>・観光地のごみ問題を解決するには…</li> <li>・殺処分0に向けて</li> <li>・死に至る言葉、そして ～インターネット上で活動する人のために～</li> <li>・新しい介護生活 ～みんなが満足！そんな社会を～</li> <li>・男女の価値観の違いについて</li> <li>・悩んでいる人にどのような寄り添うことができるか</li> <li>・歩行者の安全のために何ができるのか</li> <li>・募金を増やすには</li> </ul>
パナソニック株式会社 デザイン本部	孤独や孤立をなくし、地域で協力して「豊かな暮らし」を実現したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの大切さ</li> <li>・デジタル化が進み、人とコミュニケーションが減る中でどのようにして人との関わりを増やしていくのか。</li> <li>・デジタル化による家族への影響と個人への影響</li> <li>・ぼっち撲滅計画</li> <li>・是非な孤独</li> <li>・豊かな暮らしを実現するために孤立は不要なのか</li> <li>・余裕が孤独という考え方を考える</li> </ul>

南区役所	みなみ力(地域力)を活性化したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうのベジタブルメモリー</li> <li>・みなみ UNIT FESTIVAL</li> <li>・新生!!五塔'sと「みなみ力」アゲアゲ計画★</li> <li>・南区活性化パンフエア</li> </ul>
京都市役所 京都市都市計画局 歩くまち京都推進室	持続可能な公共交通ネットワークの構築をしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への持続可能性を高めるための回生ブレーキ</li> <li>・京の交通の要を守るために</li> <li>・乗って楽しい京都市交通局にするために</li> </ul>
	人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」を実現したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でこぼこフレンズ</li> <li>・観光客の爆発とその抑止に関する説明会</li> <li>・京都の街並みを活かしたイベント ～高・大学生がつくる写真をはがきにできるスタンプラリー～</li> <li>・京都の公共交通をよりよくするためには</li> <li>・京都へ足任せにおこしやす</li> <li>・古都「京都」と四季</li> <li>・商店街から始まる「歩いてたのしいまち」</li> <li>・食べ歩きの魅力と 歩いて楽しいまち実現の為の提案</li> <li>・日本にない和と洋の夢のコラボ</li> <li>・便利さと京都らしさを融合させた理想の街づくり</li> <li>・要素から紐解く歩いて楽しいまち</li> </ul>

## Kaiken Implicationの様子

本校で行った様子



学校外で行った様子







## 「未来デザインプログラム」企業訪問

以下の図1～図7は、訪問先からいただいたアンケート結果である。図1～図3にある通り、高校生における必要性を共有いただき、好意的な反応をいただいた。図4「学校に対する要望」においては「目的意識向上」が高く、図5「生徒に対する要望(複数選択)」において「積極的な質疑」の割合が高い。このことから、生徒の質疑応答等の行動における消極的な見え方が課題であったことが推察され、事前指導の重要性が窺える。

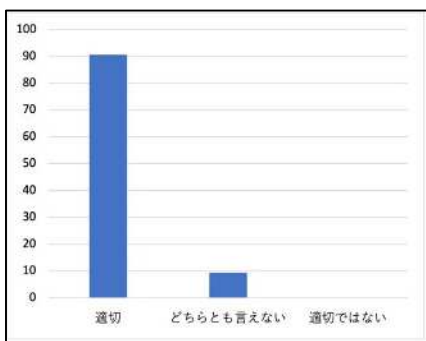


図1.学校からの連絡・調整・説明の適切さ

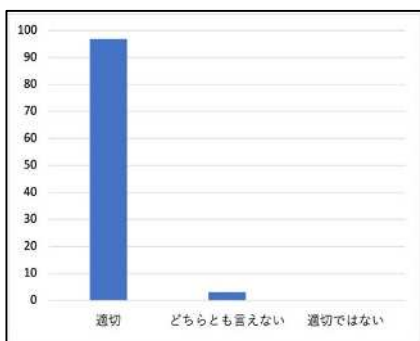


図2.生徒の訪問時のマナー

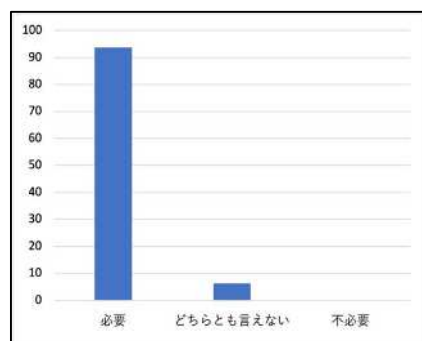


図3.このような取り組みは高校生に

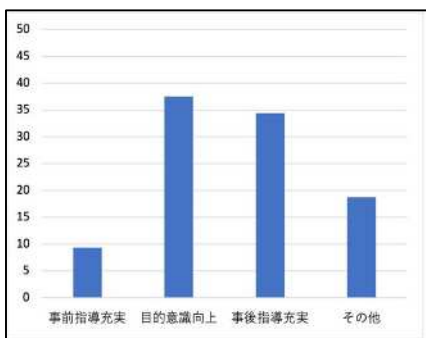


図4.学校に対する要望(複数選択)

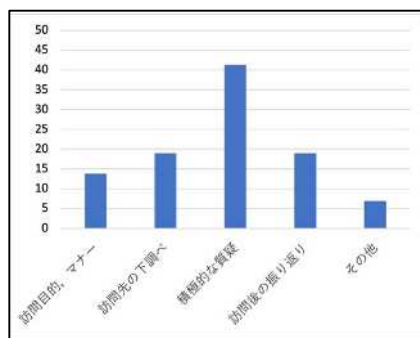


図5.生徒に対する要望(複数選択)

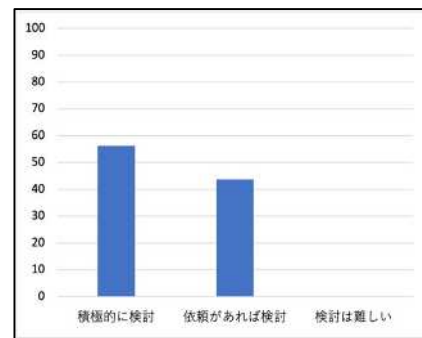


図6.次年度の協力

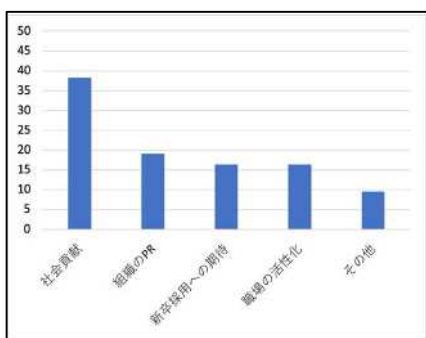


図7.受け入れの理由

事後アンケート(毎年行っている質問)[受け入れ先]、32 ケース、縦軸は%

図8は、実施時期を問う質問であるが、9月実施と12月実施を比較すると、9月実施のほうがよいという回答が多かった。しかしながら、受け入れ先によって状況は多様であり、自由記述の理由回答からいくつかの傾向があることがわかった。大学については、9月が夏休みであり、学園祭実施の時期、学生不在、学会等の出張があることから避けたいという回答があった。実際、2つの大学については、これらの理由で受け入れ不可であった。そのため個人的なルートを使いながら同大学に依頼をかけ、受け入れ承諾をいただいた。他方、企業は12月に繁忙期が集中することが多く、9月実施のほうが良いという回答が得られている。

図9は「引率について」を問う質問である。「なくてもよい」と「どちらでもよい」を合わせると85%となっている。理由としては「生徒の社会性・自主性を育む機会」「主役は生徒」「引率がないほうが生徒の積極性を引き出せる」という回答を得た。他方、「引率があったほうが良い」の理由としては、「先生方との交流も行いたい」「事故や怪我等のトラブル時に責任がとれない」という意見があった。実際に、トラブル時の責任の所在の不明確性によって、受け入れを断念せざるを得ないケースもあった。訪問先への生徒割り振りについては、一部希望を聞きながら「ランダム割り振り」とした。自由記述による回答であるためグラフは示していないが、回答をいただいた32の受け入れ先のうち、13から回答があった。内訳は、「どちらかと言えば希望制の方がいい」が約30%、約「特に変わらない、あまり差はない、ランダムで良い」が70%であった。

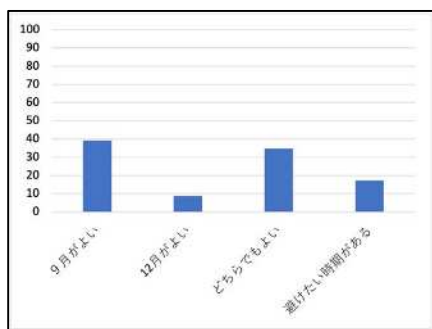


図8.実施時期

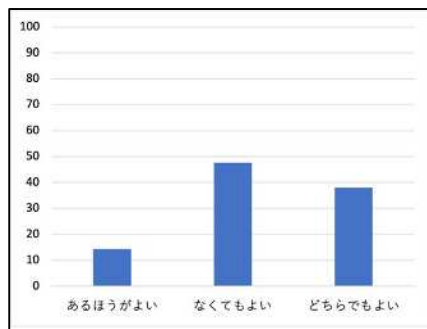


図9.引率について

事後アンケート(変更点についての質問)[受け入れ先]、32 ケース、縦軸は%

続いて、生徒から集めたアンケートについて分析する。解答はいずれも「1」が「全くそう思わない」、「4」が「とてもそう思う」である。全体として肯定的な回答が多くなっている。

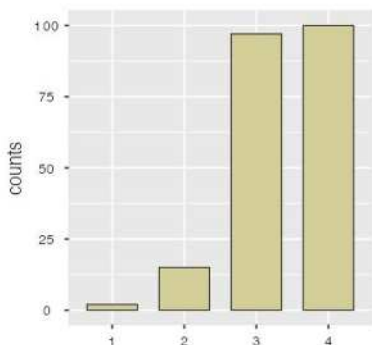


図9.自分の将来を考える上で役に立つ

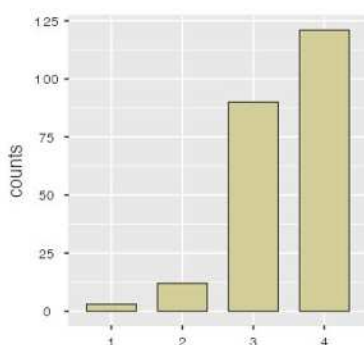


図10.学校では得られない気づきや学び

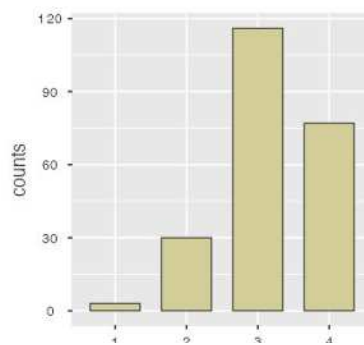


図11.進路を考える上で参考になる刺激や情報

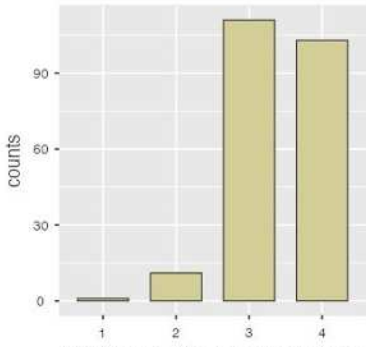


図 12.さまざまな働き方について考えを深める

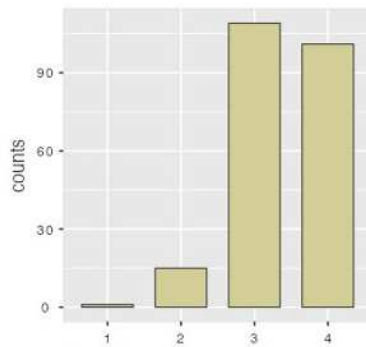


図 13.働く意義や目的について考えを深める

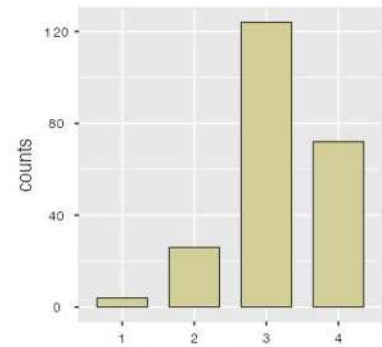


図 14.学校生活での経験と将来とのつながり

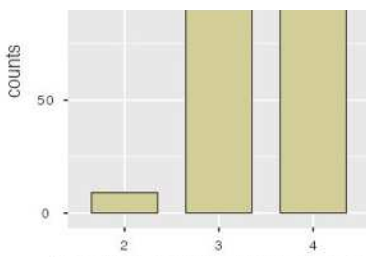


図 15.個性や能力を発揮して興味や理想を実現する重要性

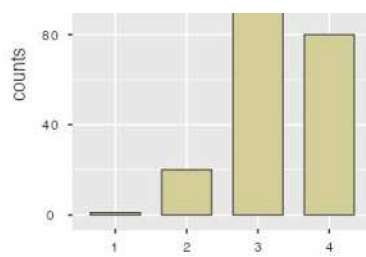


図 16.自立した生計を営む収入を得ることの重要性

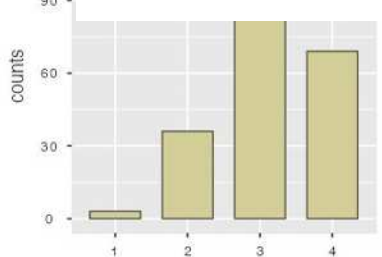


図 17.社会人の義務と責任を持って社会貢献することの重要性

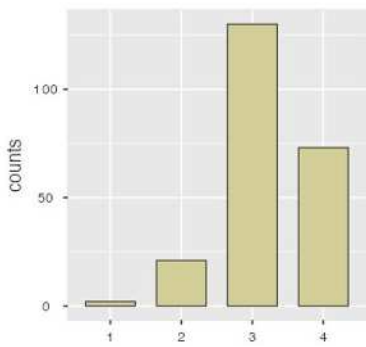


図 18.将来について積極的に考える機会となった

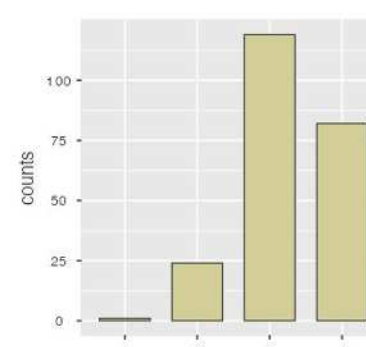


図 19.「働くこと」についてのアップデートができた

事後アンケート[生徒]、227 ケース、縦軸は度数

1:そう思わないー4:そう思う

## 1年生 キャリア・パスポート

名前 \_\_\_\_\_

### 1年生 1回目:年度当初(2023年 月 日)

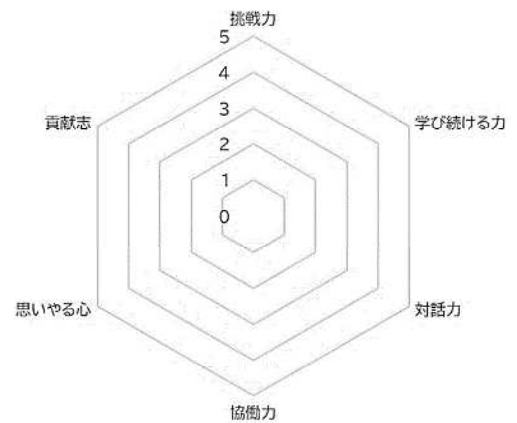
◆中学校時代までを振り返りながら、「現時点の自分」を言葉にしてみよう

(1)小・中学校で一番心に残っていること、そのことが自分に与えた影響を振り返り、書いてみましょう。

(2)中学校までで学校内外で取り組んだことで、最も面白く、夢中になってきたことは何ですか。

(3)右のレーダーチャートは、開建高校が協創者になるために必要と考える「6つの資質・能力」についてのものです。

今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」について、これから開建高校で特に伸ばしたい「資質・能力」を1つ以上選び、それについて思うところを書いてください。

選んだ資質・能力 \_\_\_\_\_

(5)1年後の自分は、どんな自分になっているでしょうか。なりたい姿を書いてください。

(6)高校を卒業した時には、どんな姿になりたいですか。今日この時間に思っている姿で構いませんので、書いてみましょう。

## 1年生2回目:前期末(2023年 月 日)

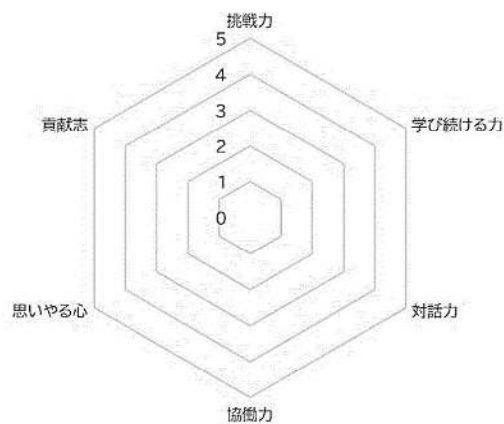
◆前期の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)前期の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)前期の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)前期を通して、現時点での「ここから先」を言葉にしてみましょう。

○ここから先の、あなたの「やってみたい」はどのようなことですか。

○学問や職業など、将来の自分のあり方についての関心は、どのように変化しましたか。

## 1年生3回目:学年末(2024年 月 日)

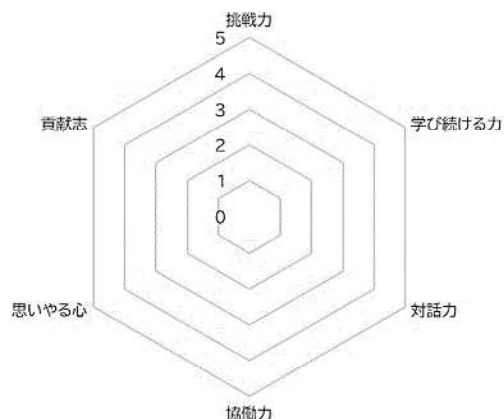
◆1年間の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)1年間の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)1年間の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」のうち、この1年で特に伸ばせたと思うものについて1つ以上選び、それにまつわる自分の経験やエピソードを書きましょう。

(5)ここから先の「やってみたい」ことはどのようなことですか。

教員( )からのフィードバックコメント

## 2年生 キャリア・パスポート

名前 \_\_\_\_\_

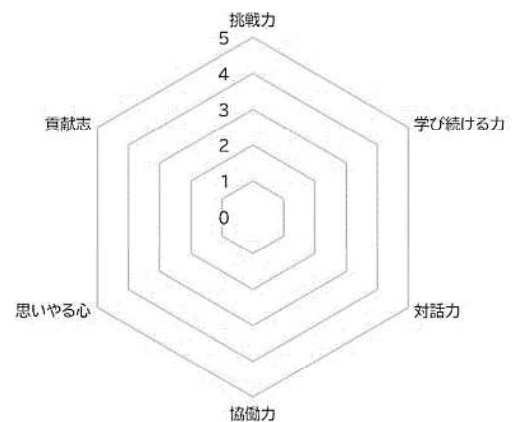
### 2年生 1回目:年度当初(2024年 月 日)

◆「現時点の自分」を言葉にしてみよう

(1)この1年間を通じて、特にやってみたいこと、挑んでみたいことは何ですか。

(2)1年の年度当初に考えた「1年後になりたい姿」に照らして、現在のあなたはどのような姿ですか。

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」について、この1年で特に伸ばしたい「資質・能力」を1つ以上選び、それについて思うところを書いてください。

選んだ資質・能力 \_\_\_\_\_

(5)1年後の自分は、どんな自分になっているでしょうか。なりたい姿を書いてください。

(6)高校を卒業した時には、どんな姿になりたいですか。今日この時間に思っている姿で構いませんので、書いてみましょう。



## 2年生2回目:前期末(2024年 月 日)

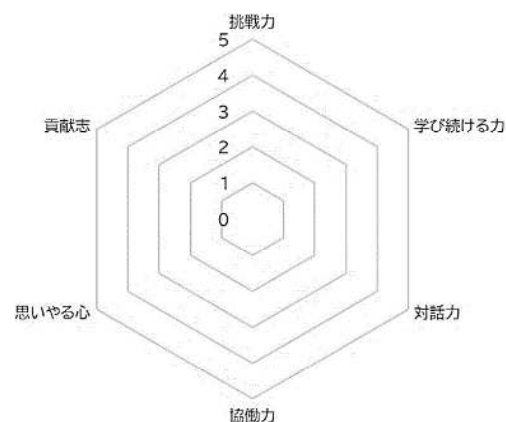
◆前期の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)前期の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)前期の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)前期を通して、現時点での「ここから先」を言葉にしてみましょう。

○ここから先の、あなたの「やってみたい」はどのようなことですか。

○学問や職業など、将来の自分のあり方についての関心は、どのように変化しましたか。

## 2年生3回目:学年末(2025年 月 日)

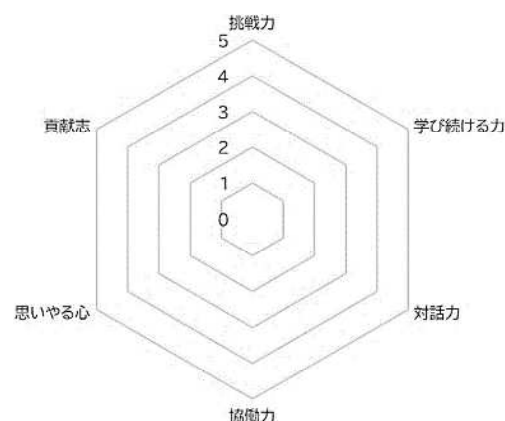
◆1年間の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)1年間の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)1年間の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」のうち、この1年で特に伸ばせたと思うものについて1つ以上選び、それにまつわる自分の経験やエピソードを書きましょう。

(5)ここから先の「やってみたい」ことはどのようなことですか。

教員( )からのフィードバックコメント

## 3年生 キャリア・パスポート

名前 \_\_\_\_\_

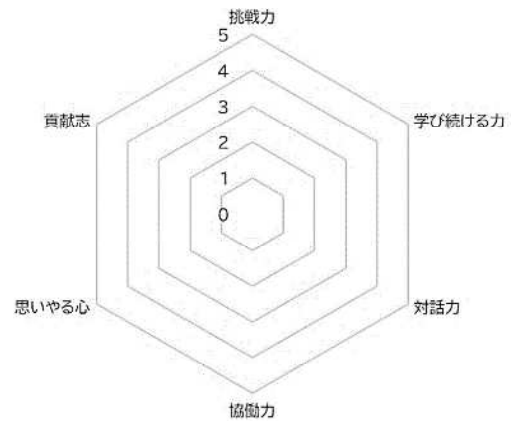
### 3年生 1回目:年度当初(2025年 月 日)

◆「現時点の自分」を言葉にしてみよう

(1)あなたが現時点で一番興味・関心があるものは、どんなことですか。

(2)この1年間を通じて、特にやってみたいこと、挑んでみたいことは何ですか。

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましよう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」について、この1年で特に伸ばしたい「資質・能力」を1つ以上選び、それについて思うところを書いてください。

選んだ資質・能力 \_\_\_\_\_

(5)高校を卒業した時には、どんな姿になっていたたいですか。今日この時間に思っている姿で構いませんので、書いてみましょう。

### 3年生2回目:前期末(2025年 月 日)

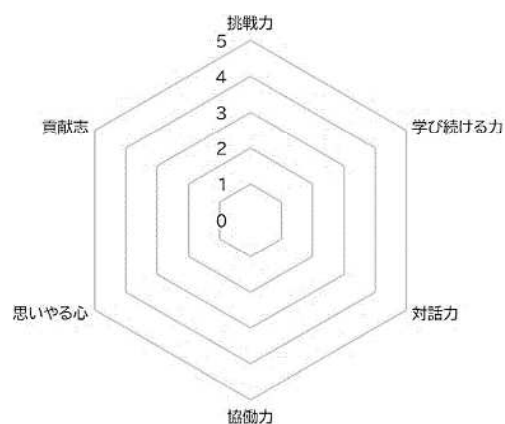
◆前期の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)前期の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)前期の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)現時点での「ここから先」を言葉にしてみましょう。

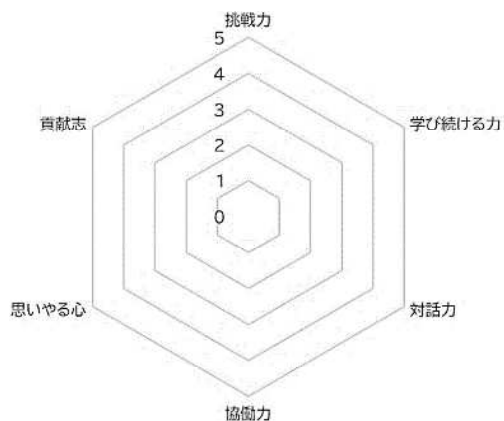
○ここから先の、あなたの「やってみたい」はどのようなことですか。

### 3年生3回目:卒業時(2026年 月 日)

◆開建高校での3年間の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)開建高校での3年間の学びの中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

(2)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(3)「6つの資質・能力」のうち、今の自分が最も自信があるものについて1つ以上選び、それにまつわる自分の経験やエピソードを書きましょう。

(4)開建高校での学びを、あなたなりに表現してください。

(5)「協創者」として広い世界に飛び立とうとする今、あなたは誰と、どんなふう、どんな未来を創造していけると思っていますか。

京都市版 キャリア・パスポート

1年生 キャリア・パスポート

1年

1年生 1回目:年度当初(2023年 4月12日)

◆中学校時代までを振り返りながら、「現時点の自分」を言葉にしてみよう

(1)小・中学校で一番心に残っていること、そのことが自分に与えた影響を振り返り、書いてみましょう。

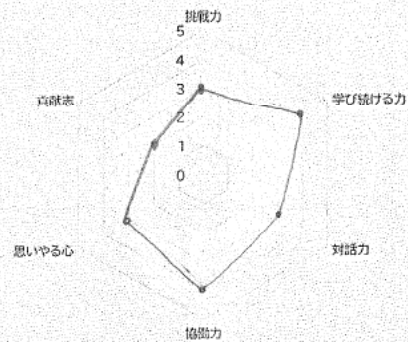
人間関係のトラブルで  
人の気持ちは話し合ったりと分らないことを学んだ。  
人と話すこと、コミュニケーションをとることは大切だを知った。

(2)中学校までで学校内外で取り組んだことで、最も面白く、夢中になってきたことは何ですか。

部活動の仲間と練習や試合 かもとても面白かった。

(3)右のレーダーチャートは、開建高校が協創者になるために必要と考える「6つの資質・能力」についてのものです。

今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」について、これから開建高校で特に伸ばしたい「資質・能力」を1つ以上選び、それについて思うところを書いてください。

選んだ資質・能力 思いやる心

今まで とても仲の良い友達の良い所を見つけれても、周りにいるあまり関わりが少なかった人たちのことは長い時間一緒にいても良い所を見つけようとは考えなかった。多くの人に興味をもちたかった。もっと視野を広げて、いる人々の良い所を見つけれるようにしたい。

(5)1年後の自分は、どんな自分になっているでしょうか。なりたい姿を書いてください。

いる人々の良い所をたくさん知っているように、何事にも関心する(?)ようになる。

(6)高校を卒業した時には、どんな姿になりたいですか。今日この時間に思っている姿で構いませんので、書いてみましょう。

人のことをよく見れていて、良い人間関係を築ける人

◆前期の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)前期の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

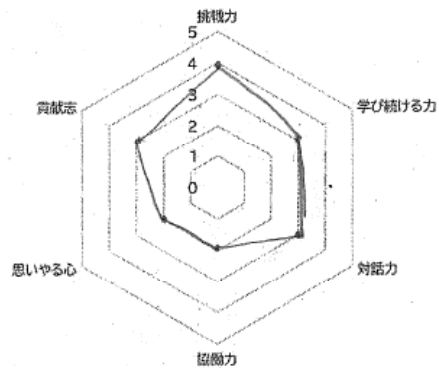
行事が生徒まかせで先生たちが内容理解できてほしいのとか  
それはちがうやろって思った。

劇とか文化祭短期間ですごい良いものできてみんなすごいって思った。

(2)前期の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと
文化祭	装飾	みんなでも いいんを思い出して 最善の方法でつくりあげた。

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)前期を通して、現時点での「ここから先」を言葉にしてみましょう。

○ここから先の、あなたの「やってみたい」はどのようなことですか。

みんなが「どうして」思ったこととか  
解決したい。  
発言してみたい。

○学問や職業など、将来の自分のあり方についての関心は、どのように変化しましたか。

少し変わったことを見えてきた。

1年生3回目:学年末(2024年3月19日)

◆1年間の活動を振り返り、自分自身の成長を言葉にしてみましょう

(1)1年間の活動の中で、自分が最も印象に残っている瞬間は何ですか。その時どのようなことをして、何を思ったのか、書いてみてください。

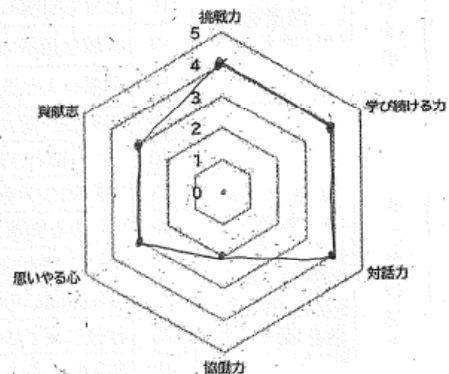
研修旅行で友達と互いに感じたいと思っていたことを  
たくさん感じる事ができた瞬間。(気づいた時)

自転車で友達と海岸をいそいそかけていく時、みんなの京都では感じられずにいて感動

(2)1年間の活動において、自分が最も関心を持ち、エネルギーを注いだ活動について、整理しましょう。欄が  
足りなければ、紙の場合は裏面に、データの場合は表を増やして構いません。

活動の内容	活動についての記録	活動後に考えたこと
研修旅行	島コース(長島, 香川, あわじ島)	余力でやりきったよな! 目立ったトラブルなく 終われてよかった。

(3)今の自分を客観的に見て、自己評価を表してみましょう。それぞれの資質・能力について、これくらいかな、と思えるところに点を打ち、6つの点を線で結んでみてください。数字と数字の間の微妙なところに設定しても構いません。



(4)「6つの資質・能力」のうち、この1年で特に伸ばせたと思うものについて1つ以上選び、それにまつわる自分の経験やエピソードを書きましょう。

思いやる心

→ いろんな人のこの人はここが良い所だよねって気づけるようになった

(5)ここから先の「やってみたい」ことはどのようなことですか。

毎日のルーティーンの方を変えていくこと

生活リズムの変化で気分を変えていくこと

教員( )からのフィードバックコメント



## 1 学校基本情報

学科・コース (学年定員)	ルミノバージョン科(240名)	全校生徒数	240名
住所等	〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町 41 TEL:075-681-0701 FAX:075-682-7107 E-mail:kaiken@edu.city.kyoto.jp		
沿革	<p>昭和 38 年 4 月 洛陽・伏見両高校の普通科生徒を受け入れる形で、普通科単独の塔南高校が開校</p> <p>令和 5 年 4 月 塔南高校の再編により開建高校が開校</p> <p>令和 5 年 6 月 新校地(京都市南区唐橋地域)への移転予定</p>		
特徴的な授業・取組、学びの環境・社会連携	<p>○普通教室4つ分の大きさと、80人の生徒と複数の教員がともに学ぶ「ラーニングポッド(L-pod)」を設置し、多様な形態がとれる学習空間で、「生徒の数と同じ数の学びがある」という考えのもと、生徒自身が設定した目標に向かって自分に適した方法で学ぶスタイルを生徒と教員で創ります。</p> <p>○企業、大学、行政など幅広い機関と連携し、伝統や文化はもとより、多様で奥深い京都のまちに触れるフィールドワークや課題の発見と解決、京都の魅力に気付く探究活動を行う「総合的な探究の時間・協創」や「学校設定科目・ルミノバージョン」を軸に学びます。</p> <p>○多様な形態で実施する部活動をはじめ、企業や大学、地域等と連携した協働プログラムやボランティア活動など、生徒一人一人が「やってみたいこと」に主体的に挑戦できる課外活動の機会を創出します。</p>		
部活動	華道、茶道、書道、美術、科学、新聞、放送、吹奏楽、ESS、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、弓道、硬式野球、サッカー、陸上競技、硬式テニス、ソフトテニス		
進路状況【令和5年3月卒業生の実績】	令和5年4月開校のため、実績なし		

## 2 本校のミッション、スクール・ポリシー

本校のミッション	希望を持って未来を協創することを通して、生徒一人一人が新しい自分(自らの可能性や良さ)を見出し、自らの成長を実感できる学校
① 育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>自らの成長とともに他者と協働しながら、より良い未来社会の創造に主体的に取り組むことができる人物(協創者)の育成を目指し、以下の6つの資質・能力を育成する。</p> <p>挑戦力、対話力、協働力、思いやる心、貢献志、学び続ける力</p>
② 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	自らを変え、未来の社会を形成していく協創者を目指す生徒たちのガイドとして、ともに考え、ともに歩み、協創的に学習体験(=カリキュラム)をつくり上げるために、教科横断的な視点や高校生活3年間の展望、多様な手立てを持ち、次に示す生徒の姿と照らし合わせながら教育課程を編成・実施する。

○生徒は、学びが未知の事柄や実社会のあり方、より良い未来のあり方と自らの生き方とつながっていることを実感する。

○生徒は、学びを進める中で考え、多様な他者と対話・協働を通して、省察・振り返りを行い、自分の学びをデザインし、さらなる深い学びへのめり込む。

○生徒は、多様な他者、地域・社会との関わり合いの中で、自らの「やってみたいこと」を見だし、「やってみること」で、まだ見ぬ自分に変化することを期待し、挑戦する。

### ③ 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

本校の育てたい生徒像である「協創者」を目指して、多様な人たちと意欲的に関わり、コミュニケーションをとろうとするとともに、身につけた知識や技能を活用し、問いの発見や解決を楽しもうとする生徒

開建高校 教育課程表

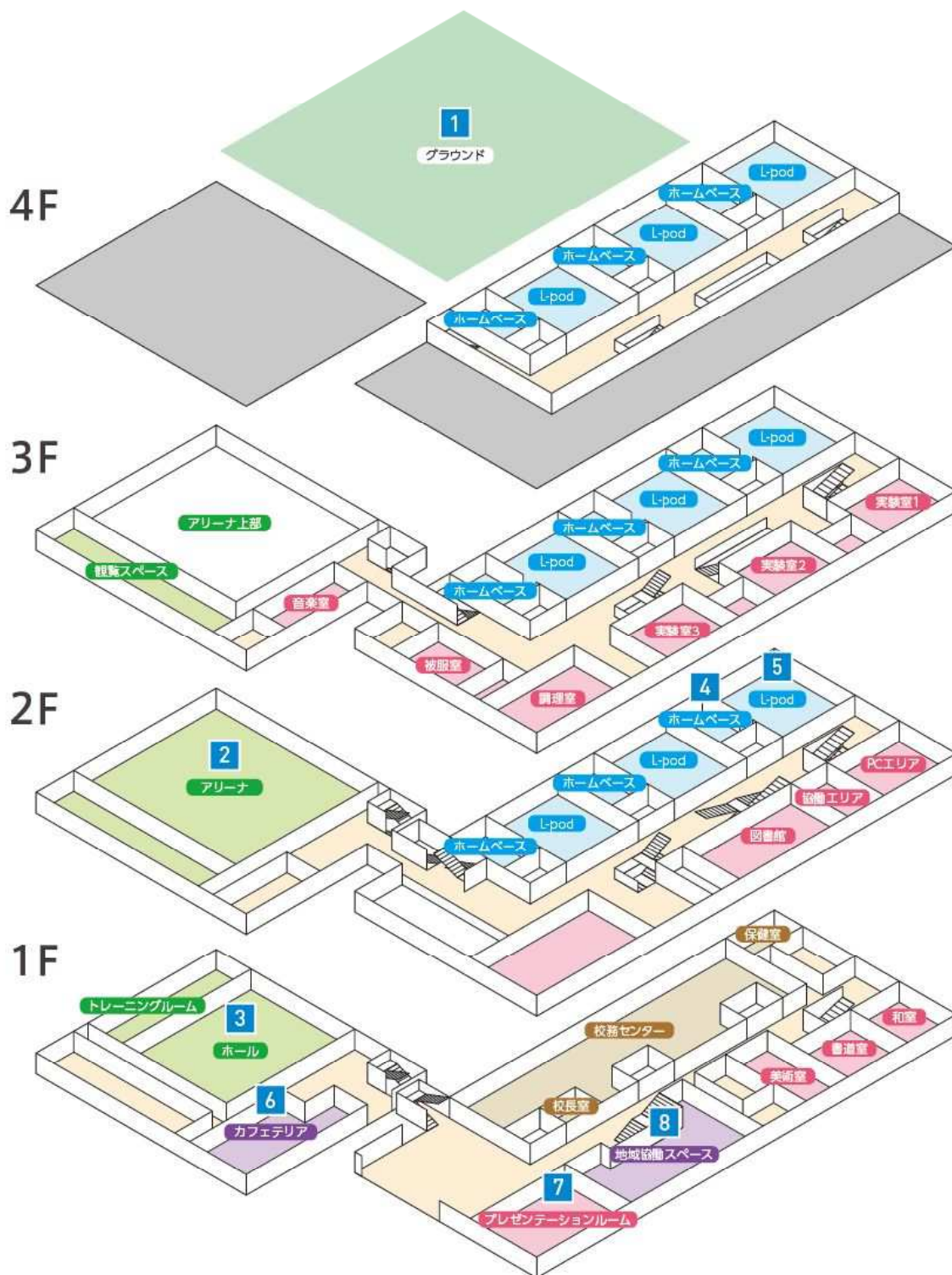
令和5年度入学生 開建高校 教育課程表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	現代の 国語	責任 文化	地理 総合	歴史 総合	数学Ⅰ	数学A	化学 基礎	数学 基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	Skills in Assertiv English I	基礎 基礎	情報Ⅰ	協働Ⅰ	リズム/ペー ンティング	L H R																	
2年	論理国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	数学B 数学C	数学D	物理基礎 生物基礎 ※1 文学国語 物理 生物	※2 地理探究 日本史探究 世界史探究 化学	体育	保健	芸術Ⅰ (音・英・書)	英語コミュニケーションⅡ	Skills in Assertiv English II	協働Ⅱ	L H R																			
3年前期	論理国語	古典探究	倫理 政治・経済	※3 地理探究 日本史探究 世界史探究 数学Ⅲ	数学活用α 数学活用β	※4 言語活用 公算活用 物理基礎 生物基礎	※1 文学国語 物理 生物	体育	英語コミュニケーションⅢ	Skills in Assertiv English III	※2 言語探究(2) グローバル(2) ローカル(2) グローバル(2) 自然科学探究(2) 数学探究(2) STEAM探究(2) 発見の芸術(2) English Project(2) Academic Research and Writers(2) 生活探究(2)	※2 地理活用 日本史活用 世界史活用 化学	協働Ⅲ	L H R																				
3年後期																																		

留意事項  
 ※1 ・文学国語、物理、生物は、2、3年で継続履修。  
 ・物理を履修するものは、物理基礎を選択したのみ可。  
 ※2 ・生物を履修するものは、生物基礎を選択したのみ可。  
 ・化学は、2、3年で継続履修。  
 ※3 ・2年で地理探究を履修したものは地理活用を、日本史探究を履修したものは日本史活用を、世界史探究を履修したものは世界史活用を3年で履修する。  
 ※4 ・地理探究、日本史探究、世界史探究は、2年時に履修していいもののみ選択可。  
 ・物理基礎、生物基礎は、2年に履修していいもののみ選択可。

科目は、学校設定科目を示している。  
 () 内の数字は、単位数を示している。

施設図



京都市立開建高等学校  
京都市南区唐橋大宮尻町22  
[メールアドレス] [kaiken@edu.city.kyoto.jp](mailto:kaiken@edu.city.kyoto.jp)  
[電話番号] 075-681-0701

